

第 38 回（就労支援）分科会報告書

1. 開催日時:平成 29 年 10 月 26 日(木)12:45～15:05

2. 開催場所:八女市役所

3. 参加者(所属のみ)

公共職業安定所、、さんふらわあ、夢工房、プラムの小径、八女てらす、八女あかり、蓮の実団地、赤坂園、ディアスポラ、陽だまりの里、年輪の園、夢と希望、あおぞら、筑水会、九州ダンボール、ひまわり、八女市、広川町、リーベル

4. 実施内容

『さんふらわあ(A型)・八女てらす(B型)』

『見学事業所に関するグループワーク』

○さんふらわあ

◇質疑応答

■4月からの法改正はA型でどう影響したか

⇒ 利用者の作業能力を重視するようになった。

仕事に対する意欲を促すことに役立っている。

■なぜA型を始めようと思ったのか

⇒ 能力が高いB型の利用者の方のステップアップのため。

■広川の作業は何か

⇒ 食品加工。他は施設外就労が中心。

■筑後の作業は何か

⇒施設外就労中心。

■それぞれが独立している意図は何か

⇒ 対抗意識があるため。

■就労希望者にはどのように対応しているか

⇒ デュナミスとの関係作り

課題をクリア→施設外就労

→セミナー・就活→一般就労へ

面接にて見極めることが大事(会社に合うか否か)

■定員は何名

⇒ 定員 20 名 × 4ヶ所(本所・広川・八女・筑後)

◇グループワークによる検討

・A型は請負作業が多いが、さんふらわあでは特に仕事が多い。

・4つの事業所を持つことで、人材確保ができ、多様性がある仕事の依頼を受けられる仕組みを作っている。

・最低賃金を支払うために様々な仕事をして、資金を確保している。



- ・「何でもやります」という言葉が印象的だった。
- ・バーベキューセットの貸出、引っ越し作業など作業所らしくない作業があり、なんでも屋のような印象を受けた。
- ・資金を効率良く考えてあり参考になった。
- ・さんふらわあの事業の中に真似できるモノがあり、参考になった。

○八女てらす

◇質疑応答

■B型(定員20名・職員8名)の作業班(農業・ろうそく)テーブル分けは？

⇒ 作業内容、利用者同士の相性。

■送迎エリアは？

⇒ 広い(矢部村舎)。車は7台。

■納期に追われている場合は？

⇒ 職員でカバーする。

■B型と移行で作業内容は違うのか

⇒ 同じ。支援方法を変えているのみで、本人の目的が変わる。



◇グループワークによる検討

・B型では、個人の能力に応じた道具の用意などの工夫が大切。

・B型の利用者にとって、A型ができることはモチベーションアップになり、同じ作業をすることで目標も明確になる。

・雰囲気良かった。

・事業展開がすごい。(手作業→機械化)

・B型だが、A型事業もしており、参考になった。

・利用後の本人への配慮が大きい。

(例:自宅に帰られていなければ、探しに行く)

・事業展開がすごい(手作業→機械化)



○共通検討事項

・A型もB型も勉強になった。

事業所設営・存続には経営手腕が大事。

・どこの支援も受けていない方は、ハローワークでの一般就労への支援が難しい。

・多くの作業内容があるのは強み。様々な能力・特性のある方に対応できる。

・それぞれの事業所に特長があることを、見学により知ることができた。

・作業しやすい環境作りが上手い。

- ・障害部分をどう補うかが重要。
- ・売れる商品を考えるというのは大変だろう。
- ・福祉が弱かった部分(品質・売れる物)にビジネスを取り入れることが大事。
- ・福祉事業サービスの質を上げることが大事。
- ・A型もB型も、どの方々にも作業をしていくことが大事。



5. その他

『販売会について』

- ・10月7日(土) 道の駅たちばなにて開催
- ・12 事業所参加
- ・昨年度は 29 万円台の売り上げだったが、今年度は 30 万円台の売り上げ
- ・今後の課題として、集客方法を検討。
(例:積極的にチラシを配布)